

『不正行為発生のメカニズム』を踏まえた 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント

～不正を犯す動機、企業が与える機会、従業員の内面の状況等、不祥事対応に“必要かつ有効な”新しい視点～

●日時● 2017年 4月 26日(水) 13:00～17:00

●会場● 東京・麹町『企業研究会セミナールーム』

講師

西村あさひ法律事務所 パートナー/弁護士 梅林 啓 氏

【講師紹介】1989年東京大学法学部卒業。1991年検事任官。東京地検特捜部検事ほか、各地方検察庁において、犯罪捜査・公判等の検察実務に従事。法務省刑事局では主として刑事関連の国際条約の起草作業に関与。在イギリス日本国大使館一等書記官(外務省出向)、内閣官房副長官秘書官等を歴任、2007年2月検事退官後、弁護士登録。同年3月西村あさひ法律事務所入所。2010年1月よりパートナー。現在は主に一般企業法務、コンプライアンス、企業不祥事にかかる危機管理案件などに取り組む一方、「社内調査の進め方」、「従業員不祥事の早期発見・抑止」などコンプライアンス関連のセミナー講師を多数務め、現場での経験を踏まえた臨場感溢れる講演として定評がある。論文(NBL889号、890号、947号、999号、ビジネス法務2011年9月号「不祥事公表の要否とタイミング」、月刊監査役563号、602号)、日本経済新聞2012年6月13日経済教室「技術流出、どう防ぐ(下)情報保護法制の整備急げ」など多数執筆。

◆ 開催にあたって

従業員による不正・不祥事の発生は、事実関係の調査や再発防止策など、企業にあらゆる事後対応と大きな負担を強いることから、その兆候を出来るだけ早期に発見するとともに、組織全体で抑止していくことが望まれます。

本講座では、不正行為を単なる“従業員の個人的資質に因るもの”とは捉えず「そもそも何故、従業員は不正に走るのか」という、従来の不祥事対応ではあまり論じられなかった『不正行為発生のメカニズム』を、従業員が不正を犯す動機、企業が与える不正の機会、従業員の内面の状況等から多角的に解明していきます。更に、そのメカニズムを踏まえ、不正行為の早期発見に向けて日頃から着目すべき視点や、抑止策を講じる上でのポイントについて、実際に社内できこり得る不正・不祥事のケースをもとに、実践的に解説していきます。

「詳細は裏面をご覧ください」

企業研究会 セミナー事務局宛

FAX 03-5215-0951

* 当会ホームページ (<http://www.bri.or.jp>) からもお申込みいただけます。

●受講料● 1名 (税込み、資料代含む)

正会員	32,400円 本体価格 30,000円
一般	35,640円 本体価格 33,000円

●申込書をFAXいただくか、当会ホームページよりお申込みください。後日(開催日1週間～10日前までに)受講票・請求書をお送り致します。

●よくあるご質問(FAQ)については当会ホームページでご確認いただけます。(「TOP」→「公開セミナー」→「よくあるご質問」)

●お申込後のキャンセルは原則お受け致しかねますので、ご都合が悪くなった際は、代理出席をお願いいたします。

●最少催行人数に満たない場合は、中止とさせていただきます。ご了承ください。

一般社団法人企業研究会

担当：上島 E-mail kamijima@bri.or.jp
〒102-0083
東京都千代田区麹町 5-7-2 麹 M-SQUARE 2F
TEL 03-5215-3516 FAX 03-5215-0951

171050-0302		2017.04.26	
申込書 『不正行為発生のメカニズム』を踏まえた 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント			
会社名	フリガナ		
住所	〒		
TEL		FAX	
ご氏名	フリガナ	所属 役職	
Eメール			
ご氏名	フリガナ	所属 役職	
Eメール			

*お客様の個人情報は、本研究会に関する確認・連絡、および当会主催のご案内をお送りする際に利用させていただきます。

『不正行為発生のメカニズム』を踏まえた 従業員不祥事の早期発見・抑止に向けたポイント

～不正を犯す動機、企業が与える機会、従業員の内面の状況等、不祥事対応に“必要かつ有効な”新しい視点～

4月26日(水)

● プログラム ●

■講師 西村あさひ法律事務所 パートナー/弁護士 梅林 啓 氏

- 解説 -

13:00

I. 不正・不祥事対応の現状と新しい視点の必要性

- (1) 企業における従来の不正・不祥事対応から導かれる“結論”と“反省、あきらめ”
- (2) 不正行為発生のメカニズム(=新しい視点)から不祥事対応にアプローチする必要性
 - ・そもそも不正行為はなぜ発生するのか?
 - ・不正行為を行う従業員は、もともと資質に問題のある者なのか?
 - ・従業員が不正に走った一因は、会社にもあるのではないか?

II. 不正行為発生のメカニズムの解明 ～会社資産の不正流用(横領)をケースに～

- (1) 不正のトライアングル(動機・機会・正当化)とは何か?
- (2) お金が必要という「動機」(プレッシャー)
 - ・従業員自らが作り出す動機、会社の行為によって作り出された動機の事例
- (3) 不正流用ができる「機会」
 - ・入金処理、不正支出に絡む機会の事例
- (4) 不正そのものの「正当化」
 - ・「悪いことではない」との自らへの言いかせ、他人への責任転嫁と具体例
 - ・正当化という要素が持つ固有の特徴と留意点

III. 不正行為の早期発見に向けたポイント ～不正行為発生のメカニズムを踏まえて～

- (1) 「機会」の発見
 - ・機会がどこに潜んでいるかを考える
 - ・不正の機会を得てしまった従業員に見られる行動の特徴
 - ・機会を見つける方法(取引先からの情報提供、上司のチェック機能の検証、内部監査の充実、など)
- (2) 「動機」の発見
 - ・動機を発見するための視点(個人的悩みへの関心、社内コミュニケーションの充実、など)
- (3) 「正当化」の発見
 - ・不正を正当化してしまった従業員に見られる行動の特徴

IV. 不正行為の抑止に向けたポイント ～不正行為発生のメカニズムを踏まえて～

- (1) 「機会」に関する抑止策
 - ・権限集中の回避
 - ・日常的なモニタリング体制、不正が発見できる内部監査体制の確立
 - ・定期的な人事異動の制度化
- (2) 「動機」に関する抑止策
 - ・会社の行為が、時に従業員の「切羽詰まった状態」を作り出す
- (3) 「正当化」に関する抑止策
 - ・従業員のモラル維持に向けた“しらけない”教育・研修制度の必要性
 - ・不正への厳正なる処分、人事、昇給、昇進に関する透明性・公平性の確立

V. その他不正行為への応用 ～機会・動機・正当化のどこに着目し、どう対策を講じるか～

- (1) 架空循環取引
- (2) 秘密情報の持ち出し
- (3) 製品・食品事故・偽装、各種法令違反
- (4) インサイダー取引

17:00